

日蓮大聖人御書全集

なんじょうどのごへんじ

南条殿御返事

げんぜかほう こと

（現世果報の事）

新版
1853
〜
1854

なんじようどのごへんじ げんぜかほう こと

南条殿御返事（現世果報の事）

けんじ ねん

建治2年（76）

がつ にち 1月19日

さい 55歳

なんじようときみつ 南条時光

春

初

おん 使

じ たもう

籠

そうろう

はるのはじめの御つかい、自他申しこめまいらせ候。

たま

種々 もの

餅

しちじゅう

さては、給わるところのすずの物のこと、もちい七十

枚 酒

一 筒

芋

一 駄

かわ海苔

一

紙

袋

まい・さけひとつつ・いもいちだ・河のりひとかみぶくろ・

大 根

二

山

芋

しち 本

とう

だいこんふたつ・やまのいも七ほん等なり。

おんこころ

品々

そうら

ねんごろの御心ざしは、しなじなのものにあらわれ候

ほけきよう

だいはち

まき

い

ねが

むな

いぬ。法華経の第八の巻に云わく「願うところは虚しから

げんぜ

ふくほう

え

い

まさ

じ。また現世において、その福報を得ん」。また云わく「当

げんぜ

げん

かほう

う

とううんぬん

てんだいだいい

に現世において現の果報を得べし」等云々。天台大師云わ

てんし

いちげんむな

い

ほうおうむな

く「天子の一言虚しからず」。また云わく「法王虚しからず」

とううんぬん

等云々。

けんおう

み

滅

虚

ごと

賢王となりぬれば、たとい身をほろぼせどもそら事せず。

況

しやかによらい

ふみようおう

とき

班

足

おう

いおうや、釈迦如来は、普明王とおわせし時は、はんそく王

館

い

たま

ふもうごかい

たも

たま

のたてへ入らせ給いき。不妄語戒を持たせ給いしゆえなり。

歌利おう

とき

じつごすく

ひと

だいもうご

じごく

かり王とおわせし時は、「実語少なき人と大妄語とは地獄に

い

仰

況

ほけきよう

もう

入る」とこそおおせありしか。いおうや、法華経と申すは、

ほとけわれ

かなら

まさ

しんじつ

と

名乗

たま

仏我と「要ず当に真実を説きたもうべし」となのらせ給い

うえ たほうぶつ じつぼう しょうぶつ 集

たま にちがつ しゅしよう

し上、多宝仏・十方の諸仏あつまらせ給いて、日月・衆星

並 たも そうら 座 席 ほけきよう

のならばせ給うがごとくに候いしざせきなり。法華經に

虚 虚 ひと ひとしん

そら事あるならば、なに事をか人信ずべき。

おんきよう いちげ いちこう くよう ひと かこ

かかる御經に一華一香をも供養する人は、過去に

じゅうまんおく ほとけ くよう ひと しゃかによらい まつぼう よ

十萬億の仏を供養する人なり。また釈迦如来の末法に、世

乱 とき おうしん ばんみん こころ いつ いちにん ほけきよう

のみだれたらん時、王臣・万民、心を一にして一人の法華經

ぎようじや 怨 とき ぎようじや 早 魘 しょうすい うお

の行者をあだまん時、この行者、かんばちの少水に魚の

住 ばんにん 罌 しか とき いちにん

すみ、万人にかこまれたる鹿のごとくならん時、一人あり

訪 ひと しょうじん きようしゅしやくそん いつこう あいだ さんごう

てとぶらわん人は、生身の教主釈尊を、一劫が間、三業

そうおう

くよう

くどく

勝

相応して供養しまいらせたらんよりなお功德すぐるべき

由 によらい きんげんふんみよう

ひ かつかく

つき めいめい

よし、如来の金言分明なり。日は赫々たり、月は明々たり。

ほけきよう もんじ

赫々 明々

明々 赫々

法華經の文字は、かくかくめいめいたり、めいめいかくかく

明

かがみ

顔 浮

澄

みず

つき 浮

たり。あきらかなる鏡にかおをうかべ、すめる水に月のう

かべるがごとし。

げんぜ

ふくほう

え

ちよくせん

しかるに、「また現世において、その福報を得ん」の勅宣、

まさ げんぜ

げん

かほう

う

ほうしょう

「当に現世において現の果報を得べし」の鳳詔、

なんじようのしちろうじろうどの

限

虚

ひ

にし

南条七郎次郎殿にかぎりてむなしかるべしや。日は西より

出 よ つき ち

とき

ほとけ

ことば

虚

いずる世、月は地よりなる時なりとも、仏の言むなしか

さだ

たま

思

らじとこそ定めさせ給いしか。これをもつておもうに、

じぶ かこ しょうりよう

きようしゆしやくそん みまえ

たま

慈父・過去の聖霊は、教主釈尊の御前にわたらせ給い、

檀 那

げんぜ だいかほう

招

うたが

だんなはまた、現世に大果報をまねかんこと、疑いあるべ

幸 甚

からず。こうじん、こうじん。

けんじにねんしやうがつじゆうくにち

建治二年正月十九日

にちれん

日蓮

かおう

花押

なんじようどのごへんじ

南条殿御返事